

決算説明会 質疑応答(要旨)

(2022年度)

Q1. 会社計画に対し、上振れ下振れの要因は。

A1. 営業損益はエネルギー&ライフラインにおいて海外プラントの影響で大幅な悪化をした一方、イオン注入装置の受注・売上増等によりインダストリアル マシナリーが大幅好転、ロジスティックス&コンストラクションは搬送システム事業の損益好転等があった。

Q2. 今期、景気減速の影響は。

A2. メカトロニクスの受注は前期並みを想定。インダストリアル マシナリーは、半導体関連の22年度の前倒し発注があった関係で受注は減少を見込んでいる。営業損益はコスト増の影響もあり抑制的であると見込む。ロジスティックス&コンストラクションは受注減、売上増を見込む。エネルギー&ライフラインは全体利益については若干の増加に留まる見込み。

Q3. 中期経営計画の収益性アップの取り組みについて。

A3. 価格改善の徹底とサプライチェーンの正常化に取り組む。また、メカトロニクスの収益性について精密減速機や電気制御関係への投資効果を上げることにより改善を図る。

Q4. (P28) 収益性が重要と考えるが、規模(1兆円)をアピールする理由は。

A4. 中計23においては質(収益性)と量(規模)にこだわることとしている。儲ける力が弱まっていることは次期中計の重点課題。

Q5. 次期中計では配当性向を高める予定はあるか。自社株買いは。

A5. 単に配当性向を高めるだけでなく、株主還元に向けた様々な方策を検討している。自社株買いも検討項目の一つ。

以上